

内閣総理大臣

小泉純一郎 様

カタールの衛星テレビ・アルジャジーラは、イラクで日本人男性一人を拉致し人質に取ったとする武装勢力のテレビ映像を放映しました。武装勢力は、「われわれは、日本政府に48時間の猶予を与える。この間に自衛隊を撤退せよ」と要求しています。これに対し小泉首相は、「自衛隊は撤退させない」と、武装勢力の要求を拒否しています。

私たち埼玉県高等学校教職員組合は、機会あるごとにアピール、決議で、大義のないイラク戦争と自衛隊のイラク派兵に反対し、自衛隊のイラクからの撤退を要求する、アメリカのイラク占領状態を早期に解消することを要求する、イラク復興は、国連の枠組みの中で、イラク人の手で行われるべきである、一日も早くイラク国民の生活が爆撃におびえることのない状態にすべきである、ことなどを表明してきました。

今回の人質事件に際し、埼高教は次の見解を表明するものです。

- 1 いかなる理由があっても、人質を取り、要求が受け入れられない場合は殺害するという行為は絶対に許されない。一刻も早く解放すべきである。
- 2 米軍は大義のない戦争・占領を続けている。日本政府は、それを支持し、自衛隊を派兵している。いくら「復興支援」と取り繕っても、米軍の立場に立っていることは明らかである。
- 3 米軍の占領政策を終了させ、イラク人の手による復興を援助することこそが、今回のような事態を回避する唯一の方法である。

私たち埼玉県高等学校教職員組合は、日本政府に対し、次のことを強く要請します。

- 1 人質の解放に向けて、全力を尽くすこと。
- 2 自衛隊をイラクから直ちに撤退させること。
- 3 国連の枠組みの中でのイラク人の手による復興を援助すること。

2004年10月28日

埼玉県高等学校教職員組合中央執行委員会